



2026年4月10日

各位

会社名 TREホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 阿部 光男  
(コード:9247 東証プライム市場)  
問合せ先 執行役員経営企画本部長 大島 伊貢  
(TEL. 03-6327-2622)

## リバー株式会社 市原事業所袖ヶ浦プラスチックソーティングセンター（仮称）の 開設について

当社連結子会社のリバー株式会社（本社：東京都墨田区、代表：松岡直人、以下「リバー」）は、近年急速に需要が拡大している再生プラスチックの供給力を一層強化すべく、プラスチックの再資源化に特化した「市原事業所袖ヶ浦プラスチックソーティングセンター（仮称）」の開設を決定しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 設立背景

政府が策定した「成長志向型の資源自律経済戦略」をはじめ、「第五次循環型社会形成推進基本計画」等において再生材の積極利用に向けた国家戦略が示される中、2026年4月には「使用済自動車に係る資源回収インセンティブ制度（※1）（以下「インセンティブ制度」）」が開始されるなど、使用済自動車（以下「ELV」）由来の良質な再生プラスチック需要が急速に高まっています。

こうした中、リバーでは国内最大規模のELV破砕を行う市原事業所を中心に自動車リサイクル事業を展開するとともに、2023年4月にお知らせ（※2）した通り、住友化学株式会社（以下「住友化学」）と「使用済み自動車から得られる廃プラスチックのマテリアルリサイクルに向けた業務提携契約」を締結するなど、ELV由来の再生プラスチックの生産・供給に向けた取り組みを着実に推進してきました。

そしてこの度、高品質な再生プラスチックの安定供給と、市場拡大を見据えた研究開発を推進すべく、プラスチックの再資源化を専業とする「市原事業所袖ヶ浦プラスチックソーティングセンター（仮称）（以下「当センター」）」の設立を決定しました。当センターは市原事業所の管轄として一体的な事業運営を行っていきます。また、本計画は環境省が公募する「令和7年度先進的な資源循環投資促進事業（2次公募）」に採択され、国の資源循環政策と整合した先進的な取り組みとして位置付けられました。

※1 自動車リサイクル法に基づき、自動車所有者が預託するリサイクル料金の一部を原資とした制度。解体業者や破砕業者がASR(ELVを破砕・選別した後にのこる残さ物)になる前に樹脂・ガラスを資源として回収した場合、ASR引取重量が減量し、その分再資源化費用が減額となることから、ASRの減量分相当のリサイクル料金額を原資として回収のための経済的インセンティブの付与を行うもの

※2 2023年4月26日 | 「住友化学とリバー、マテリアルリサイクルの事業化で業務提携 ～「動脈×静脈企業」連携で使用済み自動車のプラスチック資源循環システムの確立へ～」

## 2. 「市原事業所袖ヶ浦プラスチックソーティングセンター（仮称）」について

本計画は、住友化学千葉工場（袖ヶ浦第Ⅱ地区）内に約3,010㎡の土地を賃借し、ELV由来のバンパーや内装材などの硬質プラスチックを集中的に破碎・選別することで、高品質な再生プラスチック原料の効率的かつ安定的な供給を目指すものです。当センターでは年間約1,700トン进行处理予定であり、取扱数量の約70%を再生材として安定供給できるよう、段階的に生産能力を高めていきます。

母材となるELV由来の硬質プラスチックは、当センターを管轄するリバー市原事業所を中心に、リバーの自動車リサイクル事業を担うELV川島事業所やELV柏事業所などから回収します。さらに、2026年4月に開始予定のインセンティブ制度を活用し、新たにリバーを「管理会社」とした解体事業者によるコンソーシアムを組成。外部の自動車解体事業者と協働し、ELV由来の資源回収スキームの管理・運用を通じ、安定的な原料調達を実現します。

当センターは、ELV由来の高品質な再生プラスチック原料の生産を通じ、自動車が再び自動車へと生まれ変わるCar to Carの実現に貢献するだけでなく、プラスチック専業施設として、あらゆる廃プラスチックの再生技術を獲得するための研究開発拠点としても機能します。なお、本件が当期業績に与える影響は軽微です。

### ■センター概要

施設名	リバー株式会社 市原事業所袖ヶ浦プラスチックソーティングセンター（仮称）
住所	千葉県袖ヶ浦市北袖9番地1（住友化学株千葉工場 袖ヶ浦第Ⅱ地区内）
敷地面積	3,010㎡（工場棟:2,900㎡、事務所棟:110㎡）
主要設備	破碎機、粉碎機、風力選別機、浮沈選別機、ラバーリムーバー等
総工費	約5億円
操業開始	2026年度中
予定取扱数量	1,700トン/年 ※うち約70%を再資源化予定

## 3. 今後の展望

当社は、2024年5月に第2次中期経営計画を発表し、「WX（Waste Transformation）環境企業への挑戦」（※3）を掲げました。ELV由来の高品質な再生プラスチック原料の製造だけでなく、廃プラスチックの研究開発拠点となる当センターの新設は、廃棄物処理の高度化と“共創”によって廃棄物の可能性を最大化するWXを体現する取り組みの一つと考えています。当社は今後も「WX」を強力に推進していくことで、高度循環型社会、および脱炭素社会の実現を目指してまいります。

※3 従来資源化の難しかった廃棄物・使用済製品等について、廃棄物処理の技術的・採算的課題を克服し、資源やエネルギーへと変換する取り組みであり、動脈・静脈の枠組みを超えた“共創”により高度循環型社会、脱炭素社会の実現を目指すもの

以上